

11. 乳腺MRIが特に有用であった1例

高松赤十字病院 ○土田 絃子

【目的】

現在高 SN を有する 3TMR 装置により両乳房を同時に高分解能で撮像することが可能となるに伴い乳がん検出率が高くなっている。本院では 3TMRI 装置が稼動し始め 39 例の乳腺 MRI を経験した。その中でも特に MRI が有用であった 1 例を報告する。

【方法】

2014 年 5 月から 2016 年 1 月までに撮像した乳腺 MRI は 39 例でそのうち 35 例は手術を施行した。その中の 1 例において MRI、マンモグラフィ、エコー、病理診断について検討した。

【結果】

本症例は 68 歳女性。左乳頭血性分泌物を認め当院を受診した。マンモグラフィでは右カテゴリー1、左カテゴリー3 (FAD)、エコーでは左右ともにカテゴリー1で、マンモグラフィで認めている FAD も問題なしと診断されたが、悪性が否定されなかったため MRI を施行した。MRI では右カテゴリー1、左カテゴリー4 (11×7×8mm 大の oval shape mass を認める) と診断され悪性が示唆された。再度エコーを施行し細胞診で悪性が疑われたため、手術を施行する運びとなった。病理診断では乳頭腺管癌であった。

【考察】

本症例ではマンモグラフィで左 C 領域カテゴリー3 (FAD) と診断されたが、実際の腫瘍は別の場所に存在し乳腺と重なっていたため発見されなかった。また、1 回目のエコーでは脂肪組織と同等なエコーレベルであり周囲に脂肪組織が多かったため発見されなかった。それに対し MRI は正常乳腺組織と腫瘍が鑑別しやすく 3D 撮像によりあらゆる角度からの観察が可能となる。そのため、2D 撮像のマンモグラフィ、エコーでは見えにくかった腫瘍を指摘することができ、今回乳癌の発見が可能となった。マンモグラフィとエコーで悪性の診断がつかない場合でも臨床症状等で悪性を示唆する所見がある場合は MRI を検討することでより高い診断率を得ることができると考えられる。